

【EMD.GR.JP 掲載のニュース】 (10月8日~11月1日分)

総務省、9月末のインターネット 利用者数を発表

総務省は、2002年9月末の時点でのインターネット接続サービスの利用者数速報を発表した。

いわゆるブロードバンドの利用者数としては、CATVインターネットが180万人、DSLが4,223,216人、FTTHが114,608人となっている。

DSLの加入者が前月から31万増やし相変わらずブロードバンドの牽引役になっている。一方、CATVインターネットは4.2万の増加となり月ごとの浮き沈みが激しい。また、FTTHは初めて10万を突破した。

その他のトピックとしては、電話回線等を利用したダイヤルアップ型接続によるインターネット接続サービスの加入者数(発表は指数)が初めて減少に転じている。

(11/1)

Wi-Fi Alliance、無線LAN向けセキュリティの新方式「WPA」を発表

無線LAN製品の相互接続性を確認する業界団体Wi-Fi Allianceは、新たな無線LAN向けセキュリティ方式「Wi-Fi Protected Access (WPA)」を発表した。

WPAは、現行の暗号化技術WEP (Wired Equivalent Privacy) を置き換えるもので、より安全性が高いとしている。

WPAに対応し相互接続試験に合格したことを示す「Wi-Fi CERTIFIED」ロゴ付きの製品は、2003年第1四半期中に登録する見通し。

現在市場に出回っている無線LAN製品でも利用できるよう設計しており、ほとんどのベンダーは現行のWi-Fi CERTIFIED製品向けのアップデート用ファームウェアやソフトウェアをリリースすると予想している。

(11/1)

東芝、SD Audio 対応の PDA を発表

東芝は、XScale PXA250/400MHz、4インチ液晶搭載のPocket PC、「GENIO e」シリーズの新モデル「GENIO e550GX」「GENIO e550GS」を発表した。

「GENIO e550GX」は、RAMを128Mバイト搭載したモデル。「GENIO e550GS」は、標準でリモコン付きイヤホンが装備されたモデルでRAMは64Mバイト搭載。

両モデルともPocket PCでは初めて、SDカードに記録された著作権保護付きAAC、MP3形式に対応したSD-Audio再生専用ソフト「SD Audio Player」が搭載される。

標準の拡張機能として、CF-II(コンパクトフラッシュ TMTYPE II)とSD(SDIO)の2スロットを内蔵。また、本体背面に、取り付け可能な拡張ユニットとしてバッテリー拡張ユニット、PCカード拡張ユニットを用意。さらに無線LAN拡張ユニットも追加予定(2002年12月下旬発売予定)。

大きさはいずれも125mm×76.5mm×15.9mm、重さは約170g。

「GENIO e550GS」は2002年11月7日、「GENIO e550GX」は11月末発売予定で、価格はいずれもオープン。

(11/1)

三菱電機など、準天頂衛星システムの事業化を目指す新会社を設立

三菱電機、日立製作所、伊藤忠商事、NEC東芝スペースシステム及びトヨタ自動車は、準天頂衛星システムの開発・利用の推進を図るために2002年11月1日に新会社を設立することに合意したと発表した。

準天頂衛星システムは、複数の人工衛星を組み合わせてサービスエリアの天頂付近に、常に少なくとも1機の衛星を配置できるシステム。

高仰角であるため、建物等による遮断が少なく、トンネル内などを除き100%に近い割合でサービスエリアをカバーすることができることから、高品質な移動体データ通信(数

Mbpsの通信速度)や放送、測位などが可能になる。

新会社名は新衛星ビジネス株式会社。準天頂衛星の強みを活かしたサービス内容を検討していく。

更に、現在整備を計画している準天頂衛星システムは、その軌道の特性上、3機の衛星が北半球上と南半球上とに順次飛来することから、日本以外にも東アジアやオセアニアなどの地域へサービスを提供することも可能であり、将来的には各種サービスを広く海外で展開していくことも検討していくとしている。

(10/31)

ケンウッド、外付け NetMD ドライブを発表

ケンウッドは、ネットワークオーディオプロダクトの商品展開の一環として、PC内の音楽データを高速でMDに転送できるコンパクトサイズの外付けNetMDドライブ「DM-1NET」を発売すると発表した。

「DM-1NET」は縦置き・横置き可能なコンパクト設計。また、ケンウッドの開発した音楽管理アプリケーションソフト「Mulia(ミューリア)」が付属する。

インターフェースはUSB1.1。MDのLP4相当で保存されている音楽データを最大32倍速で、LP2相当で保存されている楽曲ならば最大16倍速でMDに転送できる。パソコンと接続しなくても、アンプ内蔵のスピーカーと接続して単独でMDの再生が可能。

MuliaはCDDDB接続機能を搭載し、CDを読み込めばアルバム名/曲名/アーティスト名のCD情報をインターネットからダウンロードし、アルバム別/アーティスト別に管理することができる。

また、ハードディスク内の圧縮音楽データを高音質再生するSupreme2も搭載し、データの圧縮によって失われる高音域の周波数を推測し補間することで、ハードディスク内のATRAC3/MP3音楽データをより原音に近い音質で再現する。

2002年11月下旬発売予定で価格はオープン

ン。

(10/31)

クリエイティブ、HDD オーディオプレーヤーを発表

クリエイティブメディアは、10GB の HDD を内蔵した音楽プレーヤー「Creative NOMAD Jukebox 2」を 11 月上旬より発売すると発表した。

「Creative NOMAD Jukebox 2」は MP3、WMA (Windows Media Audio) 、WAV に対応。最新の Windows Media Audio 9 にも対応予定で、著作権保護 (DRM)付コンテンツの転送、再生にも対応している。

10GB のハードディスク搭載、USB1.1/2.0 インターフェースを採用しており、オーディオデータの高速転送が可能となっている。専用リチウムイオンバッテリーを採用し、約 4 時間の充電で最大 16 時間の連続再生が可能。

緑色バックライト付き液晶ディスプレイ (解像度 132×64 ピクセル) は日本語表示が可能。スクローラにより簡単操作を実現している。サイズは約 123×130×32mm、249g。

音楽作成/再生統合ソフト「Creative PlayCenter」が付属し、Creative AudioSync 機能により、Jukebox 2 本体とパソコンの音楽データの同期が可能となっている。

また、データ転送ソフト「FileManager」により、音楽データ以外のデータを Jukebox 2 本体に転送、データ記録媒体として使うこともできる。

対応 OS は、Microsoft Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP。

価格はオープンブライズだが、推定小売価格は 29,800 前後としている。

(10/30)

米 RealNetworks、「Helix DNA Client」のソースコードを公開

米 RealNetworks は、オープン・ソースのマルチメディア再生ソフト「Helix DNA Client」を公開したと発表した。

RealNetworks が 2002 年 7 月に「Helix

Platform」とともに発表したソースコード公開の取り組み「Helix Community」のもとで提供される初めてのソースコードとなる。

「Helix DNA」は Helix Platform の中枢部分にあたり、今回公開した Helix DNA Client はプレーヤーのソースコードとなり、マルチメディア再生ソフト「RealOne Player」の中核エンジンに当たる。

Helix DNA Client は、非営利目的向けの「RealNetworks Public Source License (RPSL)」と商用目的向けの「RealNetworks Community Source License (RCSL)」という Helix Community による 2 つのライセンス体系で提供される。

Helix DNA Client を RealAudio と RealVideo のコーデックなしに配布したい企業や個人は、最初の 100 万ユニットまでは無料で配布でき、それ以上配布する場合には 1 ユニット当たり 0.1 ドル徴収する。また、RealAudio と RealVideo コーデック付で配布する場合には Intel ベースプラットフォーム向けに対しては 1 ユニット当たり 0.25 ドル、Intel 以外のプラットフォームに対しては 1 ユニット当たり 0.25 ドル(上限年間 100 万ドル)となる。

また現在 12 のプロジェクトが活動しており、まもなく Palm OS や Symbian OS へのポータリングや「Mozilla」「Opera」向けのプラグインが登場するという。

さらに、NEC、Nokia、Acer、日立、Philips、TI などの家電企業が Helix DNA Client をライセンスしたことも発表している。

(10/30)

Sigmatel、同社技術が SONICblue の Rio に採用されたと公表

米 Sigmatel は、同社のデコーダ技術「D-Major」が SONICblue の Rio の新シリーズ Rio S50、Rio S10、Rio Sport S30S、Rio Sport S35S に採用されたと公表した。

D-Major は、MP3 プレーヤーや PDA、携帯電話など携帯型の端末向けに高音質のオーディオ再生機能を提供するオーディオデコー

ダーソリューション。

SONICblue では、Rio の新シリーズにおいて、低消費電力、低価格、S/N 比 90dB 以上の高音質、小型プレーヤーを実現するワンチップデザインといった特徴から Sigmatel の D-Major を採用したとしている。

(10/29)

ビクター、ディスクメディアの音質向上技術を発表

日本ビクターとビクターエンタテインメントは、CD や DVD オーディオなどのデジタルオーディオディスクの制作過程において、音質向上を図る新技術「エンコード K2 (ENC K2)」を開発したと発表した。

「ENC K2」は、独自の音質向上技術「K2 テクノロジー」を CD フォーマットエンコーダープロセスに組み込むことに成功したものの。

通常、CD 制作におけるカッティング工程は、主に「マスターテープ再生」「CD フォーマットエンコーダー」「レーザーカッティング」の 3 つのプロセスで構成される。

これまで、独自の音質向上技術「K2 テクノロジー」をベースに、CD カッティング工程の各プロセスに、マスターテープに係わる音質変化を除去する「Digital K2」や、レーザーカッティングの精度、純度を高める「K2 レーザーカッティング (K2 LC)」等の音質向上技術を開発、導入してきた。

今回開発した「ENC K2」は、CD ソフト制作過程におけるフォーマットエンコーダープロセスで発生する、デジタル信号伝送系に係わる音質変化要因 (誤差・歪み・ノイズ) を除去し、オリジナルマスターに限りなく近い高品位・高音質化を実現するもので、CD 制作におけるカッティング工程全てに一貫した音質向上プロセス (Full Code Transfer System) を確立したことになる。

ビクターエンタテインメントでは、この技術を 11 月 13 日発売開始のコピーコントロール CD (CCCD) にも採用し、ロゴマークをオリジナルマスターに限りなく近い音質を実現した証しとして商品に表示するとしている。

る。

(10/29)

クリエイティブ、Creative NOMAD Jukebox 専用 FM ワイヤードリモコンを発表

クリエイティブメディアは、Creative NOMAD Jukebox3 / NOMAD Jukebox Zen 用 FM ワイヤードリモコンをオンラインショップにて2002年11月1日より販売予約を開始すると発表した。

日本語で曲名表示が可能な青色バックライト付き液晶ディスプレイを搭載、マイクとFM チューナーも内蔵し、リモコンをマイクにしてボイス録音を行ったり、FM ラジオ放送を聴くこともできる。

オンライン販売価格は6,980円。

(10/28)

中部電力、FTTH 事業サービスのメニューとキャンペーン内容を発表

中部電力ひかりネット・カンパニーは、2002年11月27日から事業開始を予定している FTTH サービス「commuf@ (コムファ)」の料金やサービス提供条件を定めた契約約款を、総務大臣へ届出したと発表した。

コムファのサービスメニューは全部で5タイプ。一般家庭用の「コムファ・ホーム」では、月額5,800円の「エコノミー」と「スタンダード」の2つのメニューがあり、いずれも最大100Mbpsの通信速度に変わりはないが、「スタンダード」ではメールアドレスが5個、ホームページ容量が50MB、「エコノミー」ではメールアドレス1個のみ提供される。

集合住宅向けの「コムファ・マンション」では、建物の構造により異なる方式が提供され、棟内を電話のメタルケーブルで配線し、通信速度が最大50Mbpsの「タイプV」(月額4,500円)と、各戸まで光ファイバを引き込み、最大100Mbpsの「タイプL」(月額3,800円)の2タイプ。そのほか、100Mbpsの通信速度を持ち、接続端末数やメールボックス容

量を拡大したオフィス向けの「コムファ・オフィス」(月額10,500円)も用意される。

初期費用はコムファ・ホームとコムファ・オフィスは25,000円、コムファ・マンションではタイプVが18,000円、タイプLが12,000円となる。

なお、サービスに開始に先立ってプレセールキャンペーンを実施。2002年11月1日からサービス開始の11月26日までに申し込みをし、2003年3月31日までにサービス提供を開始するユーザーに対し月額使用料を1カ月無料とする。さらに、導入にあたって工事日を平日昼間に設定すると初期費用を10,000円割り引くとしている。

(10/25)

「相鉄ワイヤレスインターネット」と「NeoMobile」相互乗り入れを発表

相模鉄道とエヌ・ティ・ティ エムイー (NTT-ME) は、無線 LAN インターネットアクセストライアル「相鉄ワイヤレスインターネット (相模鉄道)」と「NeoMobile (NTT-ME)」について、2002年10月23日よりアクセスポイントエリアの相互乗り入れを行うと発表した。

相鉄ワイヤレスインターネット、NeoMobile どちらかのトライアルに登録されたモニタは、両トライアルが提供するすべてのアクセスポイントで、インターネットアクセスが可能となる。

これにより、駅構内および駅前のカフェ、飲食店等に利用エリアが拡大し、モニタは、駅構内での PDA 端末を利用したメールの確認やカフェでのノートパソコンでインターネットアクセスしながらの資料作成など、状況に応じた利用ができるようになる。

実施期間2002年12月中までを予定しており、両トライアルで利用されるモニタは、合計約1,300人が想定されるとしている。

(10/24)

NTT-BP、「無線 LAN 倶楽部」のトライアルを延長

NTT ブロードバンドプラットフォーム (NTT-BP) は、サービス試験実施中の「無線 LAN 倶楽部」のトライアル期間を1カ月程度延長すると発表した。

「無線 LAN 倶楽部」は、PDA 向けに IEEE802.11b、PC 向けに HiSWANa を採用。それぞれ最大11Mbps、36Mbpsの通信環境を提供する。

当初予定していたトライアル期間の終了期日(10月31日)が差し迫っていたが、本格サービス提供までさらに準備期間を要することからトライアル期間の延長を決定したとしている。

期間延長にあたり、モニタ利用内容等の変更はないが、「モニタ規約」のモニタ期間に関する内容を修正している。また、貸出モニタへの貸出機器についても継続して利用できる。

なお、年内のサービス本格化を目的に各種準備を進めており、決定次第、改めて案内するとしている。

(10/24)

「Yahoo! BB モバイル」ルノアールでも試験サービスを開始

銀座ルノアールとソフトバンク・グループ2社(ビー・ビー・テクノロジー、ヤフー)は、喫茶室ルノアール店舗における、モバイル・ブロードバンドコミュニケーション事業「Yahoo! BB モバイル」の試験サービスを2002年10月25日から開始すると発表した。

「Yahoo! BB モバイル」は、2.4GHz帯の周波数を活用した無線 LAN 規格 IEEE802.11b に準拠。下り最大11Mbpsの無線による高速インターネット接続を提供する。

導入されるのは東京都内の喫茶室ルノアール計10店舗。一部の店舗では、11月下旬よりブロードバンド電話「BB フォン」の無料体験サービスを実施する予定としている。

今回の喫茶室ルノアールへの Yahoo! BB モバイル導入により、Yahoo! BB モバイルのサービス提供拠点は、187ヶ所(10月25日現在)となる。

なお、今後の展開の詳細については、本試験サービスの結果を十分に検証した上で、改めて告知するとしている。

(10/24)

Cirrus Logic、SongPro Player に 同社の技術が採用と発表

Cirrus Logic は、Nintendo Game Boy Color と Advance で MP3/WMA の再生が可能となるプラグインモジュール「SongPro Player」に同社の技術が採用されたと発表した。

SongPro 社の SongPro Player は、Nintendo Game Boy Color と Advance 用のコンパクト軽量マルチメディアプラグインモジュール。MP3/WMA ファイルの再生と、独自の SongPro Audio (SPA) ファイルにより音楽と同時に Game Boy の画面にジャケット写真や歌詞を表示できる。

SongPro Player では Cirrus Logic の EP7312 プロセッサを採用。オーディオファイルのデコードとシステム全体の制御、省電力制御を担当している。Maverick Key 機能により著作権保護を施されたデジタルコンテンツの再生も可能となっている。

SongPro Player は 2002 年 11 月から \$99 で発売開始予定。Toys 'R' Us、Best Buy を含む北米の大手販売店で販売する。2003 年には世界各国で販売予定となっている。

(10/24)

Macrovision、音楽 CD を拡張する規格を発表

Macrovision は、著作権保護を施しながら音楽 CD にマルチメディアコンテンツを含める拡張規格「SafeAuthenticate」を発表した。

「SafeAuthenticate」は、著作権保護を施された Windows Media ファイルを収録する。ユーザーは PC 上の Windows Media Player

でこのファイルを再生したり、HDD に転送することができる。

また、「SafeAuthenticate」を施された音楽 CD そのものが鍵となり、ユーザーはボーナストラック内にアクセスすると同様にアーティストのホームページにアクセスすることができるようになる。

「SafeAuthenticate」は、Macrovision の CD-ROM のコピー保護技術「SafeDisc」を採用しており、DVD など他の光学メディアへの拡張も可能としている。

すでに、世界中で 20 を越える Macrovision の認定製造業者で対応可能となっている。

(10/24)

オムロンとモバイルキャスト、テレマティクス総合ポータルサービス事業で提携

オムロンとモバイルキャストテレマティクスは、独立系として日本初のオープンなテレマティクス総合ポータル事業の構築を目指して、コンテンツ配信用データセンターの設立と、車載サーバーを共同開発することで合意したと発表した。

このオープン型プラットフォームは、様々なコンテンツを格納したデータセンターと車載サーバーから構成され、車載サーバーには KDDI が提供する「CDMA2000 1x」の通信モジュールを搭載する。

カーナビゲーション、カーオーディオなどの車載機器とのインターフェースとしているため、端末メーカーを問わず接続が可能となっている。

両社では、第一弾として車載サーバーを共同開発し、2003 年春にカーオーディオシステムに連動した音声テレマティクス(オンデマンドラジオ)サービスを開始する。

さらに、KDDI が提供予定の次世代高速データ通信を使用して、車載ディスプレイを用いたショートフィルムやコマーシャルなどのストリーミング配信や、車と自宅などをシームレスに接続し、映像や音声などの大容量データの扱えるモバイルブロードバンドサービ

スを計画しているとしている。

(10/22)

エイベックス、携帯電話を利用した少額決済システムを発表

エイベックス ネットワークは、携帯電話を利用した少額決済システム「avex モバレジ(=avex モバイルレジの略称)」を開発した(特許出願中)と発表した。

「avex モバレジ」は au およびツーカーグループの「EZweb」を利用した「パソコン連動決済サービス」に対応したもの。会員登録は不要で、料金は携帯電話の利用料金と共にユーザーに請求される。

使い方は、まず携帯電話のサービス「avex モバレジ」から好みの曲数分(1回に4曲840円分まで)の金額(1曲210円<税込>)を選び、所定の手続の後に楽曲購入用パスワードが記載された「モバレジクーポン」を入手。

次にパソコンを使って配信サイトにアクセスし、好きな楽曲をダウンロード。決済画面で「モバレジクーポン」のパスワードを入力することで、ダウンロードした楽曲の再生が可能となる。

現在提供されている携帯電話を活用したパソコン連動決済サービスは、定額課金(固定額を支払うことで一定期間使い放題)にのみ対応となっているが、「avex モバレジ」では従量制課金(利用するコンテンツごとに課金)にも対応できる。

最初の導入先として、2002 年 10 月 25 日(金)午前 9 時からエイベックスの有料音楽配信サービス「@MUSIC for WMA」で楽曲を購入する際の決済システムとして採用される。

今後は、ライブ中継等の映像、壁紙、スクリーンセーバーの配信など、音楽以外の少額デジタルコンテンツ決済にも対象を拡大していく予定。

さらに、他の携帯電話キャリア向けの導入も検討していくほか、エイベックスグループ以外のコンテンツの決済システムとしての利用を広く呼びかけていくとしている。

(10/21)

アドテック、MPIO シリーズ 3 機種を発表

アドテックは、デジタルミュージックプレーヤー「MPIO シリーズ」の最新モデル 3 機種 6 モデルを 11 月下旬より発売すると発表した。価格はすべてオープンプライス。

「AD-FD10 シリーズ」は、スマートメディアスロットを装備し、MP3 と WMA の再生が可能。

最上位モデルの「AD-FD10-256S」は 256MB フラッシュメモリを内蔵。ボディアカラーはシルバー。「AD-FD10-128B」と「AD-FD10-128R」は内蔵メモリを 128MB としたモデルで、ボディアカラーは 128B がブルー、128R がレッド。

本体に 132 × 64 ピクセル表示の FSTN 液晶を搭載。日本語表示に対応したバックライト付きの液晶リモコンが付属し、FM チューナーやボイスレコーダー機能も内蔵し、エアチェックも可能となっている。

バッテリーは単 3 アルカリ電池 1 本で、約 20 時間の連続再生が可能となっている。本体サイズは 63 × 19 × 63mm (幅 × 奥行き × 高さ)、重量は約 63g (本体のみ)。

「AD-FL10 シリーズ」は、SD カードに対応し、MP3 と WMA の再生が可能。

上位モデルの「AD-FL10-128」は 128MB フラッシュメモリを内蔵。「AD-FL10-64」は内蔵メモリを 64MB にしたモデル。

本体に 132 × 48 ピクセル表示のバックライト付き FSTN 液晶を搭載し、日本語表示もサポート。FM チューナーやボイスレコーダー機能も内蔵し、エアチェックも可能となっている。

バッテリーは単 4 アルカリ電池 1 本で、約 10 時間の連続再生が可能となっている。本体サイズは 74 × 14 × 41mm (幅 × 奥行き × 高さ)、重量は約 45g (本体のみ)。

「AD-FY10-64」は、スマートメディアスロットを装備し、MP3 と WMA の再生が可能。

内蔵メモリを 64MB のみ。アクティブなスポーツボディを採用した本体には 3 ライン表示の STN 液晶を搭載。日本語表示はサポートしない。FM チューナーも内蔵している。

バッテリーは単 3 アルカリ電池 1 本で、約 20 時間の連続再生が可能となっている。本体サイズは 87 × 19 × 64mm (幅 × 奥行き × 高さ)。

重量は約 70g (本体のみ)。

いずれのモデルもセキュア WMA の再生に対応している。

(10/18)

マイクロソフトと松下、デジタルメディアの新規格 HighM.A.T. を開発

マイクロソフトと松下電器産業は、音楽、映像、写真のデジタルデータを CD-RW (書き換え可能な CD) などの記録メディアに記録するための新しいテクノロジー「HighM.A.T. (High performance Media Access Technology)」を共同開発し、両社の製品において採用していく計画であることを発表した。

「HighM.A.T.」は、ユーザーが写真、音楽、映像などデジタルコンテンツを CD に保存する場合、データを読み取る規格に一貫性がなく複数の規格が存在することを解決しようとするもの。

また、記録メディアやデジタルコンテンツ情報を検索するためのインターフェースや、プレイリストや音楽メタデータ、写真や映像を収録するフォルダなど、表示されるデータも規格化する。

これにより、CD や他の記録メディアを装填した際の読み込み時間が短縮されるばかりでなく、DVD プレーヤー、CD プレーヤーといった広範なコンシューマ エレクトロニクス機器において、簡単な操作でアクセスすることが実現される。

「HighM.A.T.」を採用している CD は、記録メディアを再生することができるデバイスと互換性を保つ。また、「HighM.A.T.」は CD-R にデータを書き込む規格である Joliet ISO9660 の規格に準拠する。

マイクロソフトは、「Windows Media Player 9 シリーズ」および「Windows Movie Maker」の次期バージョンより HighM.A.T. の採用を開始予定としている。また、松下電器は、2003 年より出荷する同社の CD および DVD 製品に「HighM.A.T.」を採用していく予定。

なお、富士写真フイルムも、今後の製品およびサービスにおいて「HighM.A.T.」のサポートを予定。今後、「HighM.A.T.」の仕様を、コンシューマ エレクトロニクス機器メーカーやソフトウェア開発メーカーにライセンス供与することにより、広く普及を目指すとしている。

(10/18)

Rioport、Ecast と合併

米 Rioport は、家庭外設置機器へのコンテンツ配信用インタラクティブメディアネットワークを提供する米 Ecast と合併すると発表した。

存続会社は Ecast で、合併後の新会社の社名は Ecast。Rioport は Ecast の Rioport 事業部門として事業を存続する。

Ecast は 1999 年に設立。デジタル・ジュークボックスやエンタテインメント用機器など家庭外のブロードバンド対応デバイスに対して「ペイ・パー・プレイ」(pay-per-play) ペースでエンタテインメント・コンテンツの配信・管理を行うサービス「インタラクティブ・メディア・ネットワーク」を提供している。

イーキャストが配信を手がけているデバイスや製品は、アミューズメント装置運営世界最大手の Leisure Link を通じて、英国内だけでなく米国中の施設に設置されている。

配信コンテンツは、全メジャーレーベルおよびインディーズ・レーベルの楽曲、ゲームソフト世界大手数社のインタラクティブ・ゲーム、インターネット上の主要情報源からのスポーツ、ビデオソフト、ニュース情報など。

Rioport は、「e-tailer (音楽配信事業者)」を通じてパソコンや専用再生機器へのパーソナルな音楽配信を提供している。

今後は、両社のコアコンピタンスを生かし、例えばラウンジに置かれたジュークボックスで pay-per-play の歌を聞き、ジュークボックス画面から e-tailer の口座にログオンしそのトラックを購入。このトラックをポータブルプレーヤーに直接ダウンロードできるようにしている。

なお、Rioport の日本拠点、株式会社リオポートでは、法人の商号変更も含め、詳細はあらためて発表を行う予定としている。

(10/17)

pressplay に BMG の楽曲も追加

米 pressplay は、4 社目のメジャーレーベルとして BMG との間で楽曲提供に関する契約を締結したと発表した。

この契約により、pressplay の提供楽曲に、BMG の 12 万曲を超えるあらゆるジャンルの楽曲が加わることになる。

pressplay は Sony Music Entertainment と Universal Music Group の合併事業。2 社に加えて、EMI Recorded Music、Madacy、Matador、Navarre、OWIE、Razor & Tie、Roadrunner、Rounder、Sanctuary といったレーベルが楽曲を提供している。

実際のサービスは提携パートナーである MP3.com、MSN、Roxio、Yahoo を介して提供されている。

有料会員制サービスの最新バージョン「pressplay version 2.0」では、ストリーミング、ダウンロード共に楽曲を無制限に利用可能にしたほか、ダウンロードした楽曲を携帯型プレーヤーに転送できるサービスや、インターネットラジオ局を視聴できるサービスを追加している。

(10/16)

ビクター、NetMD 対応ミニコンボシステムを発表

日本ビクターは、原音を忠実に再現する新開発高音質デジタルアンプ「DEUS (Digital Emotional Universal Sound)」を搭載した「Net MD」規格対応のコンパクトコンボシステム「SS-NT1MD-S」を発売すると発表した。

デジタルアンプ内で生成されたデジタル信号と出力アナログ信号を、それぞれにフィードバックさせる「ハイブリッド・フィードバック」技術により、増幅回路や電源の変動で

発生する音質阻害要因を排除し、原音を忠実に再現する新開発高音質デジタルアンプ「DEUS」を搭載。

幅 160mm × 高さ 130mm × 奥行 240mm のコンパクトな本体部に、CD、MD、チューナーを凝縮するとともに、各チャンネル最大 30 W のハイパワーを実現している。

「Net MD」規格に対応し、付属のアプリケーションソフト「INTERJUKE」により、インターネットの音楽配信コンテンツ、CD、MP3 や WAV 形式の音楽データをパソコンで保存・管理し、聴きたい曲を MD に高速転送できる。

パソコンの音楽データを USB 経由で再生する USB オーディオ再生機能も搭載する。

2002 年 12 月 2 日発売予定で、価格はオープン。

(10/16)

松下、ミュージック機能搭載 SD マルチカメラを発表

松下電器産業は、異業種合同マーケティングプロジェクト『WiLL』の参画商品として、SD メモリーカードを使用して「動画」「静止画」「音楽」などが手軽に楽しめる第 2 弾 SD マルチカメラ「WiLL D-snap」SV-AV30 を 2002 年 12 月 2 日より発売すると発表した。

SV-AV30 は SD メモリーカードスロットを搭載し、SD メモリーカードに記録された MPEG2-AAC、MP3 ファイルを再生することができる。

リモコン付ステレオインサイドホンが付属し、再生、頭出し、早送り、早戻し、音質切り替え（イコライザー機能）などが操作できる。

本体には著作権保護機能対応 USB 端子を搭載。付属の USB ケーブルと、別売の SD オーディオ PC レコーディングソフト（SH-SS10）を使用すれば、「SD-Jukebox Ver.3.0」で記録した静止画付の MPEG2-AAC、MP3 ファイルをパソコンからチェックアウトが可能。

「SD-Jukebox Ver.3.0」には人が曲を聴いた時に受けるイメージを自動的に分析してデータベース化し、フィーリングに合わせた選曲を瞬時に行うことができる「ミュージックソムリエ」機能を搭載、取り込んだ楽曲ごとに好みの静止画データを添付する機能も搭載している。

「SD-Jukebox Ver.3.0」のパッケージには、USB-SD カードリーダーが付属する「SH-SSK10」とソフト単体の「SH-SS10」の 2 製品があり、いずれも 2002 年 12 月 2 日発売。

SV-AV30 のその他の機能としては、1/4 インチの 31 万画素 CMOS を搭載し、レンズは単焦点 (F2.35)。デジタルズームは 2 倍。動画フォーマットは MPEG-4。記録解像度は 320 × 240 (スーパーファイン/ファイン)/176 × 144 ドット (ノーマル/エコノミー) で、最高 15fps (320 × 240 ドット/スーパーファインモード時) での撮影が可能。

640 × 480 ドットでの静止画記録にも対応し、画質モードはファイン/ノーマル/エコノミーが選択できる。ボイス録音機能にも対応する。

液晶は 2 インチ 20 万画素 TFT。8MB の SD メモリーカード、AV 入出力を備えた充電クレードルが付属する。ボディカラーはシルバー、ブルー、イエロー、ホワイトの 4 色。

(10/15)

ソニー、バイオミュージッククリップ用「OpenMG Jukebox」最新版公開

ソニーは、ポータブルオーディオプレーヤー「バイオミュージッククリップ」用の「OpenMG Jukebox Ver.2.2」を公開した。

対象製品はバイオミュージッククリップ MC-S50・S25、MC-HP1、MC-P11W、MC-P10。

主な変更点は以下の通り

- ・ Windows 98/Me/2000/XP への対応
- ・ 標準インストール(工場出荷時)で NTFS が設定されている場合のみ NTFS に対応

- ・楽曲ファイルの移動機能をサポート
- ・サウンドエフェクト/イコライザー機能を追加
- ・GUIの変更
- ・WAVE/MP3/WMA形式の音楽ファイルを暗号化せずに、「OpenMG Jukebox」上で管理/再生できるようになった(ポータブルプレーヤーへチェックアウトする際には暗号化が施される)
- ・音楽CDからHDDへ録音する際の手数を向上
- ・音楽配信(EMD)サービスによる「Net MD 対応楽曲」をすべてのポータブルプレーヤーにチェックアウトできるようになった
- ・「MUSIC NAVI」CDデータベースによる「CD情報取得機能」を追加

ダウンロード版 OpenMG Jukebox Ver.2.2 アップグレードプログラムと有料の「OpenMG Jukebox Ver.2.2 アップグレードキット CD ROM」で提供される。
ダウンロード版では「HDD CD データベース」機能が利用できない。

ダウンロード版のファイルサイズは約65MB。

(10/11)

有線ブロード、9月末時点の進捗を公表

有線ブロードネットワークスは、ブロードバンド事業(FTTHブロードバンドインターネットサービス)について、2002年9月末時点の進捗状況を公表した。

これによると、Webでサービスの申込みを行なった登録数が94,040件、工事日が確定している契約者数が34,344件、回線が開通している取り付け数が18,950件となり、取り付け数がひと月で3,000件弱の伸びを見せた。

そのほかの数字を8月末時点のものとは比べると、登録数で約4,000件、契約者数で約4,000件の増加となっており、前回計上方法を変えたことによるかさ上げがなくなっている。また、展開エリア数は89から90となっている。

(10/10)

富士通テン、ツインハードディスク搭載のカーナビ発表

富士通テンは、カーAV&ナビゲーションシステム「ECLIPSE(イクリプス)」に、新たにハードディスクドライブ(以下HDD)ナビゲーションシステム「AVN9902HD」をラインナップし、2002年11月1日より発売すると発表した。

「AVN9902HD」は、業界で初めてHDDを2基搭載し、ナビゲーションとオーディオそれぞれに独立したHDDを使用することで相互の干渉を防ぎ、ゆとりのある容量で高速アクセスを実現した。

音楽専用HDDには業界最多の最大3,000曲が収録できる「MUSIC JUKE」機能を採用している。

MUSIC JUKEはデジタル録音、アナログ録音の両方に対応、音楽CDなどからのデジタル録音を行う場合、再生中のCDを自動的に録音するオートモード、あるいは録音したい曲を選ぶマニュアルモードを選択できる。

HDDには、約23万タイトルのアルバム名、トラック名、アーティスト名、ジャンル名を含む楽曲データベース(Gracenote社提供CDDB)が収録されており、この情報を録音した音楽ファイルに自動的に付与し、同時に録音日も記録される。

圧縮コーデックにはATRAC3フォーマットを採用。約1/10の容量にサイズダウンすることができ、音楽専用HDDに最大3,000曲の収録が可能となっている。

また、マジックゲートメモリスティックスロットを搭載し、メモリスティックに収録された楽曲の再生や壁紙用画像の読み込みが可能。

(10/10)

9月末のDSL加入者数は420万

総務省から2002年9月末時点のDSL加入者数の速報が発表された。それによると加入者数は4,223,216で、これは前月末の7.9%増。増加率は前月から0.6%のマイナス。

内訳を見るとNTT東西のフレッツADSLでの加入者が1,726,832、他事業者経由のDSL加入者が残りの2,496,384で、NTT東西のフレッツADSLのシェアは40.9%と前月から0.6%のマイナス。

(10/10)

「Yahoo! BB」会員、9月末現在で100万人突破

ソフトバンクは、全額出資子会社ビー・ピー・テクノロジーがヤフーと共同で提供しているブロードバンド総合サービス「Yahoo! BB」の進捗状況を公表した。

それによると、Yahoo! BB会員は101万1000人、前月比で12万6000人の増加。また、Yahoo! BBと同時に提供されるIP電話「BBフォン」の利用登録者数は52万人。

なお、8月には下り最大12MbpsのADSL接続サービス「Yahoo! BB 12M」の商用サービスを開始。さらに、10月からはADSL・IP電話・無線LAN一体型の「Yahoo! BB トリオモデム 12M」を用いた試験サービス「Yahoo! BB 12M+無線LANパック」の提供も開始されている。

(10/9)

NTTドコモ、100Mbpsの無線伝送実験に成功

NTTドコモは、第4世代移動通信システムに向けた無線アクセス実験装置による下り最大100Mbit/s、上り最大20Mbit/sの屋内信号伝送実験に成功したと発表した。

この実験は、基地局装置と移動局装置から構成されている無線アクセス実験装置を用いたもの。

今回の伝送実験に用いた無線アクセス方式は、「VSF-OFCDM(可変拡散率直交周波数・符号分割多重)」という技術。屋内・屋外或いは基地局設置密度などのエリア環境や、その時々通信条件に応じて、同一の無線インターフェースで高速パケット通信を可能にする。

第4世代移動通信システムについては、国

際電気通信連合無線通信部門 (ITU-R) においてビジョンの検討が進んでおり、国内でも総務省情報通信審議会答申において、2005 年までの要素技術の確立及び 2010 年の実用化を目指した取り組みが始まっている。

NTT ドコモでは、今回の屋内での伝送実験成功を受け、今後はフィールドにおける実証実験の実施も視野に入れつつ、第 4 世代移動通信システムの無線アクセス方式の研究開発を引き続き推進していくとしている。

(10/9)

リアルネットワークス、「RealOne Player v.2.0」日本語版をリリース

リアルネットワークスは、RealPlayer の最新バージョン「RealOne Player v.2.0」日本語版 (Windows 版) を発表した。

RealOne Player v.2.0 日本語版は、RealPlayer と RealJukebox の機能を統合、あらゆるデジタルメディアを再生でき、ユーザーインターフェースも大きく変更された。ウェブブラウザを搭載し、インターネット上のあらゆるコンテンツの検索、管理、再生からオリジナル CD の作成、ポータブルデバイスへの転送まで一つのソフトで実現している。

動画ではハイクオリティなコーデック RealVideo9 をサポート。またユニバーサルプレーヤーとして Windows Media、QuickTime MPEG-4、および DVD を含む 50 種類以上のファイルタイプに対応する。

有料版の「RealOne Player Plus」(価格 4,800 円)と、無償版「RealOne Player v.2.0」があり、「RealOne Player Plus」では、高ビットレートの MP3 エンコーディングや CD ケースの印刷など追加機能が利用できる。

有料版、無償版とも同社のサイトからダウンロードできる。

(10/9)

オンキヨー、ホームネットワークオーディオ機器を発表

オンキヨーは、新開発のネットワークプロ

トコル: Net-Tune (ネット・チューン) による本格的なホームネットワークオーディオ機器の第一弾製品: NC-500(S) を発表した。

Net-Tune は、コンピュータのネットワークでは一般的な Ethernet を介して、デジタル音楽を家庭内で配信、従来のオーディオ機器に匹敵する音質と操作性を実現するオンキヨー独自開発のプロトコル。

リアルタイムな音楽データの送受信に最適化した制御方法により、選曲から再生までストレスなく、通常のオーディオ機器に匹敵する快適な操作性で音楽を再生することが可能。

デジタル音楽コンテンツの保護に配慮し、著作権保護されている音楽データは再生できない。また、ネットワークを経由して音楽データをデジタル録音することもできない。

NC-500(S) は、ホームネットワークに Ethernet ケーブル 1 本で簡単に接続ができ、ホームサーバーに蓄積された音楽データをデジタル転送してストリーミング再生することができる。

ホームサーバー内に蓄積された MP3、WMA、WAV 形式の音楽データから好きな曲を呼び出して聞くことができる。Ethernet ハブを経由して複数の NC-500 を同時使用することもできる。

D/A 変換の際に発生する有害なパルス性ノイズを全く含まず、滑らかな信号を生成していく「VLSC (Vector Linear Shaping Circuitry)」回路 (特許出願中) を搭載、MP3 や WMA などの圧縮データの再生でもハイクオリティな音質で楽しむことができる。

また、ブロードバンド環境が整っている場合には、インターネットラジオを直接受信することができる。Imerge 社との提携により、インターネットラジオのポータルサイトに登録されたインターネットラジオ局の中からお好みの局を選択して、世界に流れるラジオ放送を楽しむことができる。

NC-500(S) は、2002 年 12 月に発売予定。希望小売価格は 50,000 円。

(10/9)

802.11a 製品の呼称「Wi-Fi5」から「Wi-Fi」へ

Wi-Fi Alliance は、802.11a 規格に対応していると認定した無線 LAN 製品に付けようと計画していた呼称「Wi-Fi5」を破棄し、「Wi-Fi CERTIFIED」ロゴを利用していくと発表した。

Wi-Fi Alliance (旧名称 WECA: Wireless Ethernet Compatibility Alliance) は、無線 LAN 製品が Institute of Electrical and Electronic Engineers (IEEE) の規格に準拠しているかどうかを認定する業界団体。

Wi-Fi Alliance では、近く Wi-Fi 認定作業を開始し、認定された製品のバンダーは製品パッケージに認定ロゴを貼付することができる。

(10/8)

NTT-ME、無線 LAN サービス「NeoMobile」が Wi-Fi ZONE に準拠

エヌ・ティ・ティ エムイー (略称: NTT-ME) は、トライアルを開始している無線 LAN インターネットアクセス "NeoMobile(ネオモバイル)"において、Wi-Fi Alliance が公衆無線 LAN アクセスの国際標準規定として策定した "Wi-Fi ZONE" プログラムへ参加すると発表した。

これにより、"NeoMobile" は、公衆無線 LAN の国際標準ブランドである "Wi-Fi ZONE" に準拠するサービスとして、Wi-Fi Alliance の規定する一定の品質・利便性・サービス性を満たすサービスであることが広く認知されるよう、"NeoMobile" の全アクセスポイント 41ヶ所において、"Wi-Fi ZONE" ロゴを掲示する。

"Wi-Fi ZONE" は、無線 LAN (通信方式: IEEE802.11b) 機器および公衆無線 LAN サービスの国際的な業界団体である Wi-Fi Alliance (ワイファイアライアンス) (旧名称 WECA: Wireless Ethernet Compatibility Alliance) が、公衆無線 LAN アクセスの国際標準規定として策定したものである。

この Wi-Fi による無線 LAN パブリックアクセスの国際標準ブランドとして、単に無線

機器間の相互接続性の保証だけでなく、公衆無線 LAN インターネットサービス全般において、一定の品質・サービスを維持し、各公衆無線 LAN 事業者 AP 間の相互接続を推進する事業者であることを証明する。

NTT-ME では、"NeoMobile"商用化検討を通じて、より多くの ISP ユーザーが、無線 LAN 事業者の区別無く公衆無線 LAN サービスを利用できる AP 相互利用の推進を図ると共に、"Wi-Fi Alliance"と協調し、広くアジア圏における"Wi-Fi ZONE"の普及推進に向けた中心的な役割を果たしていくとしている。

(10/8)

EMD Magazine 第 26 号

発行 2002 年 11 月 4 日

発行所 音楽配信関連情報サービス

責任編集 宮腰 温

レイアウト 株式会社アイビルダース